

父と昔

My 全人倶楽部 TONERI

26 2019年 4月1日号

発行 編集 敬文舎

〒160-0023

東京都新宿区西新宿3丁目3-23

ファミール西新宿 405

TEL: 03-6302-0699

FAX: 03-6302-0698

E-mail: keibun-sha@aria.ocn.ne.jp

歴史を知る楽しさ、そして歴史が 教えてくれる意義を広めていきたい

日本の美術業界に 思うこと

田中千秋

「アートフェア東京」という日本最大の美術展示会が、今年も三月、行われた。弊社は画廊「秋華洞」として、現代画家五名による「美人画」二〇点ほどと、数点の江戸や昭和の美人画を提示し、日本における、人物表現の変遷を示した。

筆者は、一五年ほど前から、美術売買の画廊を経営している。いわゆる画廊と呼ばれる仕事である。

もともと祖父がはじめた家業なのだが、本家は親戚が継いだので、父とあらためて銀座で開業した。額に入った油絵を扱う画廊ではなく、掛け軸や古文書を当初は扱っていた。

アートフェア東京は、そもそも現代アートの見本市からはじまっている。最近では、ポップアートが「アートの」の典型例になっている。そのせいか、このフェアでは掛け軸などの地味なものを並べておいても、ほぼお客様への反応がない。

このフェアでもお客をつかみたい。だから、この場所で勝負できる、生きている画家がほしかった。だが、軽薄

な画家ではなく、古美術を扱う眼をもつても満足できる、信頼できる画家を探した。なかなかいなかったが、ようやく見つけたのが池永康晟いけながやまであった。彼は、女を独自の技法で描く。彼の強みは、誰もまねできない独自の茶色く粗い絵肌と、繊細で圧倒的なデッサン力だ。

彼と、江戸から昭和の伝統的な「美人画」の世界をつなぎ、古美術商兼現代アート画廊としてウチの売りにした。

この作戦がうまくいったのか、近ごろ、美術界隈は「美人画ブーム」と呼ばれている。私たちは何人かの「美人画家」を世に送り出したが、ほかの画廊や美術館もまねするようになった。

最初はまるで売れなかった池永も、今では、展覧会初日に人が殺到して売り切れる。

だが、まだいくつかの問題点がある。「ブーム」が本当に美術史を変えるような仕事になっているかといえば、まだまだだろ。

かつてクリムトやエゴン・シーレが一九世紀末のヨーロッパで成し遂げた

ような、心をかきむしり、世の金持ちどもに一〇〇億出しても買いたいと思わせるものを作っているかといえば、そこまではない。

なによりいちばんの問題は、日本人が美術に金を落とさないことである。

ご存知であろうか、日本人はひとりあたりの美術購入金額が他国に比べ極端に少ない。アメリカ人のたった5%

なの。そのため、いい作家を送り出しても、認知されるのに時間がかかりすぎる。言い訳はいくらもみつかる。ただこれは異常ともいえる状況だ。

まだ、これから、やるべきことは多い。世界の人にも、日本人にも日本の芸術を購ってもらおう。所有してみなければ、本当の芸術はわからない。

ぜひ皆さんにも、応援していただきたい。



●田中千秋（たなか・ちあき）秋華洞代表（美術商・画廊経営）

日本考古学入門①

『旧石器時代——日本文化の起源』

日本人は

どこから来たか？

佐藤 宏之

私が旧石器時代の研究者であるとかると、しばしば尋ねられる問いのひとつである。しかし「アフリカが起源で、アジア大陸を通過して日本にやってきた」という簡単な説明は、じつはもはや正確性に欠けている。新種の人類がアジアで誕生した可能性が高いことが判明しつつあるのだ。

当然彼らは特有の文化や社会を持っていたはずなので、それらは考古学的証拠として残されている可能性が高い。問題はこうした「新しい文化」を、旧来の証拠の中からどのように区別できるかにある。

たとえばこれらの同時存在した異人種間では、言葉は通じたのであろうか。近年の遺伝研究から、異人種間の混血の存在が報告されはじめたので、一定の相互理解能力はあったと思われる。

しかし、外界を認識する水準と方法は、同一だったのであろうか。

旧石器考古学は、現生人類一種の社会を前提とした文化・社会研究の射程

では照射できない範囲も対象としている。我々にとって、まったくの異人種と共存する社会は、想像すらできない。しかし、遺物や遺跡は残されているので、この課題に挑戦しないと、過去を具体的に説明できない。

新刊の『旧石器時代』では、この課題については、ほとんど触れることができなかつた。内容が現在進行形のため全体を平易に説明することがむずかしいこと、そして日本列島の旧石器文化の大部分は、現生人類が登場した四万年前以降の後期旧石器時代を対象にしているからである。



長野県八風山2遺跡の基部加工尖頭形石器



●さとう ひろゆき
東京大学大学院人文
社会系研究科教授
(考古学研究室)

住みやすかつた日本列島

日本列島に、四万年前に現生人類が出現すると、瞬く間に列島中に広がり、人口は急速に増大した。旧石器時代の遺跡の総数は一万四五〇〇に及び、この遺跡数と密度は世界一に近い。それほど氷期の日本列島は人びとの生活に適した地であつたと思われる。

これ以降、日本列島は、集団構成が劇的に転換するような大規模な人口移動は観察されていない。したがって最初に日本列島に登場した現生人類の集団が、最古の日本人であるといえる。最古の日本文化は、これらの日本人(現生人類)が生み出した。それはたったひとつの日本文化ではなく、三つの旧石器文化として現れた。

北海道、本州・四国・九州、沖縄の三つの地は、日本文化がはじめて成立したときから異なる文化的発展の道を歩んだ。そして彼らがどこから来たのかについては解明されつつある。

ヒスカルセレクション刊行開始

考古から現代まで各時代のポイントを、第一線で活躍する研究者が、豊富なビジュアルと図版を用いて平明に解説します。

『旧石器時代——日本文化の起源』

佐藤 宏之

『弥生時代——邪馬台国への道』

設楽 博己

旧石器時代の内容

- 第1章 旧石器時代の自然環境と人びと
- 第2章 日本列島の文化の形成
- 第3章 列島独自の旧石器文化
- 第4章 社会と生活
- 第5章 旧石器時代から縄文時代へ

弥生時代の内容

- 第1章 弥生人と弥生文化
- 第2章 弥生人の暮らし
- 第3章 墓と祭祀
- 第4章 生産と流通



A5判 並製 128ページ
オールカラー 予価2000円+税

『ジェンダーで問い直す 暮らしと文化—新しい生活科学への挑戦』

「生活文化学」への ジェンダー視点

大塚 浩

本書は、奈良女子大学叢書の第四弾として、奈良女子大学生活環境学部生活文化化学科における研究・教育活動の成果を、生活学・生活文化学領域の研究者、学生をはじめ、広く一般の読者にも提供することを目的として編んだものである。

の途上にある生活文化学領域の学問的営為としての独自性を確立する試みとして、「ジェンダー」概念をこの分野の研究の有用な視点として取り入れることを提示したことである。

二〇世紀後半以降の思潮においてジェンダーはすべての学問領域において考慮に入れるべき不可欠の視点となっている。生活文化学は、生活領域に関わる広範な問題群（家族・福祉・医療・衣食住・環境・災害・消費など）を扱う。

そこで、本書では、生活文化学学科の研究者たちが、各分野における先端的な研究でジェンダー視点を徹底させ、視点の一貫性を与えることとした。

各章はそれぞれのフィールドについて異なった方法でアプローチしているようにみえるが、ジェンダー視点で生活文化学領域を分析するという点で一貫した視点を共有しているわけである。

「自立」と「依存」の現実課題

本書では、ジェンダーの視点を取り入れつつ、包括テーマとして「自立」と「依存」の関係を探索することとした。本書の各所で対概念として繰り返す「自立」と「依存」の問題は、私たちの生活領域のあらゆる場面で人びと

が直面する現実の状況として立ち現れるもので、それぞれの方法で間接的にせよ取り扱うことで、現実の社会的問題を生活文化学がどのように照射し、批判し、乗り越えようとしているかが明らかにされる。

構成としては、生活文化学とはいかなる分野かを紹介する総論に続いて、「自立」は主にPART1、「依存」は主にPART2で論じられる。

さらに生活文化学の研究方法と教育方法について解説・紹介するPART3を設けて、これから研究・教育活動に入る若手研究者へのガイドとしての役割も果たせることとした。

しかし、生活文化学の扱う領域は非常に多様なので、興味を惹かれるテーマから読み進めていただくという読み方でも楽しんでいただけたらと思う。

生活文化学領域の概説書はほかに類をみず、本書が生活文化学の学問分野としての確立と発展の道程における里程標のひとつとなればと考えている。



奈良女子大学におけるディベート授業の光景



●おつか ひろし 奈良女子大学大学院生活環境科学系生活文化学領域准教授

新刊のご案内

奈良女子大学生活文化学研究会 編

『ジェンダーで問い 直す暮らしと文化』

—新しい生活文化学への挑戦—

総論—ジェンダー視点が拓く生活文化学の新たな地平 / 三成美保

PART1 自立して生きる

江戸前期の男色・恋愛・結婚 / 鈴木則子
手工芸品の価値をめぐるジェンダー・ポリティクス / 山崎明子
「食」から考える持続可能な社会 / 青木美紗
消費者運動の展開と消費者法 / 大塚 浩

PART2 関係性のなかで生きる

産むことと文化 / 松岡悦子
環境配慮行動の伝播—文化・ジェンダーによる違い— / 安藤香織
「家族介護者支援」はなぜどのように論じられたのか? / 井口高志
災害文化を更新する / 野田 隆
アメリカ女性は誰と永久の眠りについたのか / 佐野 敏行

PART3 生活文化学の方法

フィールドワークで「現場」と向き合う / 青木美紗
観察法から社会調査を考える / 井口高志
PBLによる初年次教育の試み / 大塚 浩
ディベートを大学授業で活用する / 安藤香織

本書の内容



A5判 並製 352ページ
予価:本体2800円+税
3月下旬刊行予定

信州4万年のタイムトラベル

長野県立歴史館は平成六年一月三日、更埴市(現千曲市)屋代にオープンした。

常設展示室は環境復元展示という手法とっている。見て、ふれて、体感できる博物館である。

常設展示室に入ると眼前には木曾ヒノキ林が広がる。年輪を読み取ると、伐り倒された木の自然史がわかる。年輪のグラフをみながら現代から大昔へタイムスリップだ。

私たちの四万年の旅を最初に迎えてくれるのは、ナウマンゾウだ。三〇万年ほど前に大陸から渡ってきたこのゾウは、二万年ほど前に絶滅してしまふ。その理由は氷河期の最寒冷期とこの時代にいた旧石器人の狩猟によるといわれている。体重四トのナウマンゾウからとれる肉は二トで、大人五〇人の一か月分の食料となった。「現在動くナウマンゾウを見ることが出来るのは当

館だけです。」と学芸員の声。

次のコーナーは、八ヶ岳をバックに六〇〇年前の縄文時代前期の復元されたムラである。復元された竪穴住居はなかに入ることが出来る。屋内の中央には、鹿の毛皮の上に腰を下ろすと、周りには木の実が入った土器や石の道具がたくさんあり、気分はもう縄文人だ。

さらに現代へ向かう旅は続く、なにやら踊念仏の声が聞こえてくる。ここは鎌倉時代の善光寺門前。右手に掘立小屋の棚店、左手には仏画や机などを並べて写経や読経などを行っていた板葺き切妻で漆喰の壁を持つしつかりとした建物である。寺庵を見て南大門を指す。棚店では、参詣人や旅人たちの必需品である草履や木の実などが並べられている。

さらに旅を進めよう、今から三〇〇年前、江戸時代に建築されたと推定される実際の農家を移築した。土間に入ると馬屋がある。荷運びや農作業に欠



人気のバックヤード体験
たくさん土器や骨にかこまれ、考古学のプロから説明を聞けます。

かせない馬は大切にされていたことがうかがえる。

江戸時代末から明治はじめにかけて、農村では養蚕が営まれ、いち早く器械製糸を取り入れた。製糸業で近代化をはかった長野県は、日本一の「養蚕王国」になった。明治七年に長野市松代町に設立された六工社は県内初のフランス式器械製糸場だ。電気のない時代、水車やボイラーを動力源にした糸繰り機が復元されている。

大正時代の学校、昭和時代おもちゃに触れて、四万年の旅は終わる。

当館では、県内外数多くの小学生が社会科見学や移動教室で訪れる。人気がバックヤード探検である。普段は入ることができない博物館の裏側、土器や石器などを棚に収納している収蔵庫に入り、実際の土器を持ってみる体験ができる。もちろん大人もイベント時などに行っている。

ぜひご来館いただき、楽しみながら信州の歴史を体感していただきたい。



足で歴史を感じる、
まち歩き of 極意

第十三回
昭和から平成の先へと続く
立石仲見世アーケード

平成御徒組 R

平成も終わりを迎える今、昭和の雰囲気色濃く残す街が人気を集めている。昭和レトロの街、「せんべろ」の聖地として、立石が注目を浴びてから一〇年ほどになり週末には若い女性客も多い。立石仲見世は、駅から奥戸街道まで一二〇メートルにわたってアーケードが続き、昼間から行列ができる居酒屋、物産を製造販売する食料品店、シニア向けの洋品店などの個人商店が軒を連ねる。

古くから人や物が行き交った立石

奥戸街道は、奈良時代に整備された古代東海道の一部に重なる。地名の由来となった道標は「立石様」として祀られ、「江戸名所図会」にも取り上げられている。縄文海進で海が入り込んでいた葛飾周辺には石材になる石がなく、安房鋸山付近の海岸の「磯石」が用いられている。柴又八幡神社古墳など周辺の古墳にも、古墳時代に舟で運ばれた磯石が利用されている。

大正のはじめ、京成立石駅が開業し、東京市内と鉄道で結ばれる。立石〜四ツ木間は道路を利用した併用軌道だったが、荒川放水路開削に伴って専用軌道に変更され、立石駅も現在地に移された。関東大震災後、東京市内に比べて被害が少なかった葛飾に工場が移り、水田が住宅地へと変わる。太平洋戦争末期、空襲で被災した亀戸の遊廓が北

ご推薦!

我が博物館

テーマが好評です

長野県立歴史館
総合情報課
大竹 憲昭



復元されたナウマン象
目をパチクリ、大きく首を
振って来館者を迎える。

「せんべろ」:1000円でべろべろに酔える、酒場の俗称。

ここが見所、 地元密着型の

岐阜市歴史博物館
学芸員
上窪美季

二階の「総合展示室」では、原始、現代までにおける岐阜のあゆみを体験を交えて紹介する「ぎふ歴史物語」と伝統工芸の展示「伝統の技と美」の本立てで展示を行っています。

信長を中心の「総合展示室」

岐阜市歴史博物館は、市民が郷土の歴史と文化に親しみ、知識と理解を深める生涯学習の場として金華山のふもと岐阜公園のなかに昭和六〇年（一九八五）十一月に開館しました。以来、歴史に興味のある方だけでなく、岐阜公園・岐阜城に来られた方など、幅広い層の方々にご来館いただいております。

一階の特別展示室では、年に数回、特別展・企画展を催しています。



岐阜市歴史博物館
(外観)

岐阜県岐阜市 岐阜市歴史博物館

岐阜市の歴史と伝統工芸を紹介する 体感・体験型博物館

なかでも注目して頂きたいのが「塩屋」です。この町屋はフロイスが泊まった二階建ての建物で、山科言継の日記にでてくる信長の馬廻でもあった大脇伝内という人物が主人という設定です。

「ぎふ歴史物語」の一番の見どころは「楽市立体絵巻」で、永禄一〇年（一五六七）に信長が岐阜に入城した際、戦乱で荒廃した城下町の復興のため、町の中心部から離れた御園に楽市場の制札を立てたと考え、永禄一二年（一五六九）に来岐した宣教師ルイス・フロイスの書簡と公家・山科言継の日記をもとに当時の楽市場を復元したものです。

楽市場内には四軒の町屋があり、それぞれ「洛中洛外図屏風」などの資料を参考に、当時の工法で建ててあります。展示物の商売道具なども資料に基づいて制作しています。

町屋の中には、土間の上に朱槍がかけられ、信長の家来にふさわしく武具類が置かれています。

大脇伝内の人形のセリフ・ナレーションからは「信長が楽市場の制札を出した際に一番に馳せ参じたので、市場の責任者である市司を任せられ、信長の家来に取り立てられた」ことや、「ルイス・フロイスが和田惟政の紹介で泊まっており、都から伴天連が追放されるので、何とか留まれるよう信長にお願いに来た」ことが分かります。ほかにも色々と信長の時代を知る手掛かりがありますので、ごゆっくりご覧頂ければと思います。

体験コーナーでは「盤双六」などの戦国時代の遊びや、戦国時代風の武将や当時の女性の衣装の着付けもできます。（※不定期開催）

一、二か月ごとにテーマ替えて展示を行う「特集展示室」もあります。



「塩屋」の2階建て町屋。

口に移転してきた。南口周辺には空襲による延焼被害を避けるため建物疎開で空き地が設けられた。戦争が終わると、空き地に東京中心部で焼け出された人や復員兵が集まり、ヤミ市が形成される。ムシロ敷きの青空市場にバラックが建ち、木造の平屋が二階建ての長屋に変わり、アーケードをもった商店街に発展していく。三交代制でフル稼働する工場のニーズに応え、仕事終わりの一杯が朝から楽しめるモツ焼きの店が人気を集めた。

立石の食卓を支えたアーケード

二〇一八年秋、関東学院大学建築・環境学部黒田研究室により、3Dレーザースキャナを用いた立石仲見世の実測調査が行われた。黒田研究室のハイテク撮影と並行し、博物館ボランティアとしてフツのデジカメで撮影しながら、仲見世の方々に話をうかがって歩く。半世紀前のことともなるとおぼろげな記憶も多いが、取材を重ねるうちに写真の背景にある歴史が浮かんできて、戦後ニッポンの食生活や流通の変化を感じられるようになった。周辺に家族経営の町工場が多く、立石の食卓を支えてきた仲見世だったが、スーパーの出店で客足に変化が生じる。

戦後すぐに建てられた店舗は今も現役で、昭和の建物で営まれてきた暮らしは、平成から次の時代へと続いていく。記録にカメラは欠かせないが、カメラには写らないまちの記憶がある。歴史を探るまち歩きは、未来へのまちづくりにつながる。



写真展「葛飾探検団/定点観測2018 立石」は葛飾区郷土と天文の博物館で5/6まで開催されている。

特別寄稿

天皇の代替わりと これからの皇室

小田部雄次
静岡福祉大学名誉教授

天皇の生前譲位（退位）は、江戸時代後期の第二一九代とされる光格天皇以来二〇〇年ぶりといわれる。かつては第三五代の皇極天皇をはじめとして五九代の天皇が生前に譲位したが、明治以後は大日本帝国憲法と旧皇室典範の規定により、皇位継承は天皇が亡くならない限りありえなかった。

戦後の日本国憲法と新皇室典範も、天皇の生前の譲位を認めていなかった。しかし、天皇の高齢化や社会の急激な変化、天皇の公務などの増加などさまざまな理由から「象徴としての天皇の務め」が困難となり、天皇みずから生前の譲位を願い、国民と政府の賛意と支援により実現した。

こうして平成三十一年（二〇一九）四月三〇日に平成の天皇は譲位して上皇となり、五月一日に皇太子が新天皇に

即位することとなった。

新たな元号への道

そして、この譲位と即位の儀式と結びつき、ほかにもいくつかの儀式や変更、改革などもなされることとなる。そのひとつは改元であり、明治以後の一世一元を踏襲し、かつ戦後の元号法に基づいて、平成に代わる新たな元号が四月一日に公表され、新天皇即位の五月一日から施行される。

代替わりによる改元は、皇室の長い伝統のひとつでもあり、今回もこの伝統が受け継がれるわけだが、厳密には、従来通りではない。

たとえば、元号は漢字二文字で構成されるなどは継承されるようだが、即位前に元号が公表されることはなかった。一世一元ではなかった近代以前でも、新元号は即位後、それも数年後の場合もあったほどだ。

近代では、昭和の改元の際に「光文」という元号がスクープされ誤報とされ



今上天皇は4月30日に皇室典範特別法により退位し、5月1日に皇太子殿下が天皇に即位する。

た事件もあり、一説では新元号は「光文」だったが漏れたため「昭和」に代えたともいう。事前の漏洩は「法度」だったのだ。しかし、今回はコンピュータトラブルなどに備えるために一か月前に公表し、平成の天皇が署名し、しかも天皇と新天皇となる皇太子に事前に報告するという。

かつては天皇が事前に新元号を知ることがあったが、元号法は戦後の象徴天皇に合わせ、天皇が元号制定に関与しない法令となっていた。

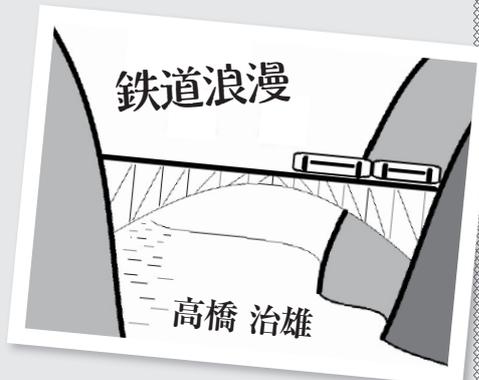
今回、国民への公表前に天皇の目にふれる機会ができたことで、元号法の規定はなしくずしとなったわけである。高度化する情報社会に適應させるための対応ともとれるが、法のもつ原則がつきつきと壊されていくのは、ある意味、安倍内閣の本質かもしれない。

皇位継承の課題

法のもつ原則にしばられて、皇室が現実に対応しがたくなっている問題も多い。その一番大きな問題は、将来の皇位継承者がいなくなるかもしれないことだ。

皇室典範の「男系男子」の規定では、新天皇が即位するのは秋篠宮文仁親王が次の天皇となり、その後、現在一二歳の秋篠宮悠仁親王が継承することになる。悠仁親王が今後二五年ほどの間に将来の伴侶を得て、その伴侶との間に男子をもうけることができなけ

鉄道浪漫



高橋 治雄

第6話 さくら

やわらかな光の中で輝くように咲く桜の花こそ日本の春そのものである。桜の季節は東北新幹線に乗る機会が多く、そのたびに移りゆく車窓の桜を楽しんできた。ところが、最近線路際に不細工な防音壁が並ぶようになり、桜どころか景色そのものが見えにくくなってきた。残念である。そこで、代わりに中央線の桜を見に行くことにした。

新宿駅を発車した特急あずさの車窓には、期待に違わず桜の花が満開となって光り輝いていた。特に学校などの大きな建物の周りや、道路に沿ってまとまって咲いている桜は見応えがあった。

街のなかの桜はまたたく間に間に後方に去り、高尾駅を通過したところで山路に入っていく。車窓を見ると山全体が山桜のモザイク模様となって色を添え、桜の花で山が膨れあがっていた。山桜が咲くその山の麓には驚くほど大きく枝を張り出して小山のようになつた一本の桜が見えてきた。ちょうど満開を迎えたばかりで、花の色がまだみずみずしく感じられた。

ところが、大月駅を通過した先では様子が変わって桜の花はまだこれからという風情であった。そしてあたりの山々には枯木ばかりが並んでいる。

れば、天皇家は断絶し、象徴天皇制に代わる新たな国家制度を整えるための憲法改正が必要となる。この問題の解決を誰がどのように進めていくのか、まったく見えていない。

一方、皇族女子は婚姻により皇籍を離れることになっており、一番若い愛子内親王がすでに適齢期になっており、現在の内親王や女王は、誰でもいつでも婚姻によって皇室を離れることができる。また、婚姻でなくとも皇室会議の議を経れば、一五歳以上であれば、皇族の身分を離れられるのである。

もし現状のままであれば、近い将来は新天皇皇后と秋篠宮夫妻、悠仁親王のみの皇室となってしまうのである。遠い将来はさらに、悠仁親王のみという想像もできない状態の皇室となってしまう。そのころには旧宮家の子孫と皇室との血縁関係もかなり隔たってしまう、復帰説は今よりさらに遠のくだろう。

皇室の役割を知る重要性とは

新天皇皇后の代ですら、皇族数の減少によって、公務（国事行為、公的行為・宮中祭祀など）の負担が大きくなると予測されている。

即位礼・オリンピック・万博と、それぞれ経済効果も大きく、国民の期待も大きい行事が予定されているが、このときに来日した来賓の接遇や答礼は、誰がするのであろうか。首相や外務官僚ではなく、国家の象徴の天皇を中心

とした皇室のメンバーが、担うことになる。

世界一〇〇か国を超える国々との親善を数名の皇族に任せて、国民はその経済効果やお祭りの恩恵にあずかって歓喜しているのであれば、その共同体は末期的症状に陥っているといえよう。

とはいえ、皇室みずからは「物が言えない」。言えば「憲法違反」として大きな抵抗に合う。ただ、ひたすら与えられた公務などを遂行するだけである。こうした懸念に具体的に対応できるのは、国民の賛意と支援を受けた政府であって、退位法の制定による生前譲位の実現は、皇室が抱えている問題解決の終結ではなく、はじまりなのである。

平成三二年度の皇室関係費用は約三〇〇億円（そのうち天皇家の内廷費三億二四〇〇万円、皇族費は総額三億六四一七万円、計約七億円、ほかは宮廷費、宮内庁費、皇宮警察本部経費）で、一億二千万人の人口一人あたり年二五〇〇円に満たない（納税人口を六千万人としても五〇〇円）。その額で国事行為のみならず国際親善や全国行幸啓、被災地慰問をふくむ多くの公的行為を担っているわけだ。

ちなみに防衛費は五兆円で、一人あたり年四万円（納税人口では八万円）、オスプレイは一機一〇〇億円である。皇室が世界の平和や日本の発展に果たしている働きと効果を、もっと重視すべきではないか。

小田部雄次の本

『昭和天皇実録評解1』

『昭和天皇実録評解2』

『昭和天皇実録評解3』

小田部雄次著

明治三四年のご誕生から昭和六四年の崩御まで、八七年のご生涯を記録した『昭和天皇実録』（全六冊・計約二万一千頁）の重要事項を抜粋整理して三巻に要約。

●第三巻（戦後）、まもなく刊行！



定価：各巻本体2,000円+税
(税込2,160円)
A5判・上製 384頁

『君は天皇をどうしたいのかね?』

明石元紹・小田部雄次著

平和の象徴、皇室の未来とは？
天皇メッセージの真意は？



定価：本体1,200円+税
(税込1,296円)
四六判・184頁

やがて列車は長い笹子トンネルを抜け、さらにトンネルをいくつかくぐって、甲府盆地の緑にさしかかる。

ここで勝沼ぶどう郷駅の桜並木が見えてくる。楽しみにしていた桜はソメイヨシノではなく山桜とのことであるが、白っぽい花のかたまりがまさに満開となつて、辺り一面を埋め尽くすかのごとく咲き乱れ、車窓からはみ出さんばかりにあふれていた。

勝沼ぶどう郷駅は、元スイッチバック駅であった勝沼駅で、構内の一段下がった使われなくなったホームの跡では大勢の花見客が桜の花を楽しんでいた。あずさは通過して行くので、ほんの一瞬のうちに通り過ぎてしまった桜の花々であったが、しばらくの間、目に焼き付いたままであった。

やがてあずさは甲府盆地の広がりを見下ろしながら坂を下っていく。あたり全体が霞んでいて、満開の桜も霞のなかに溶け込んでぼやけていた。平地におりてくると霞は消えていたが、ここでは桜ではなく桃の花が濃いピンク色を輝かせてあたり一面に咲き乱れていた。

甲府駅に近づくと、桜がてんこ盛りになった小高い丘が右手に見えてくる。さらに街中のあちらこちらに咲く桜の塊が大きく車窓に迫ってきた。駅の手前左側にある舞鶴城公園の桜は車窓からうかがい知れなかったが、石垣の下の片隅にまでまっぴらで咲いていた桜の枝は見事であった。

甲府駅を発車してからも同じように桜を楽しむことが出来たが、やがて甲府盆地をあとにして本格的な山路に入ると桜は見えなくなってしまう。代わりに梅の花やよぶしと思われる白い花がひっそりと咲いていた。

ここ数年、絵本の蒐集に夢中になっている故、この「めっけ本」コーナーに、絵本の登場が多くなっています。ご容赦ください。

さて、つい先日、とある古本屋で著名な作家の絵本なのに、初めて目にする作品に出会いました。日夜絵本を漁っていると、いま活躍中の作家の絵本は、たいがい目にしたことがありますので、この出会い本当に驚きでした。その作家は、『しばてん』や『とべバツ』等で知られ、泥臭くダイナミックな作風でファンが多い田島征三です。

●『くもだんとかえる』ポプラ社文 松谷みよ子／ケイコ・ローレII アガサ 絵 田島征三 一九六九年 話は、アフリカの民話を基にして

私たちの活動を 紹介します

最上地域史研究会の活動

最上地域史研究会は、昭和五二年六月に、山形県最上地方の歴史や民俗・地理などに関心を持つ人々や団体相互の研究と交流を目的に発足しました。会員数は、一〇〇名に上る時期もありましたが、高齢化等に伴い、現在は六〇余名となっています。

連載 路地裏の 「めっけ本」 — 拾陸 —



1969年に出版された幻の絵本『くもだんとかえる』

● 榎川 渉 かじかわ・わたる / 路地裏誠志堂主人。Web専用古本屋「路地裏 誠志堂」
http://rojiura-s.o.oo7.jp
(詳しくはホームページをご覧ください。)

います。ある村で、いつも虐げられているカエルが、復讐のため、くもだんなの体内に潜り込み、その体を支配し暴れまわり、村全体を破壊してしまおうという残酷なものです。田島征三の描く絵も、いつにも増して、毒々しくバイオレンスで迫力があるものでした。

じつは、この絵本が出回っていない原因は、その迫力にあつたのです。発売されて一週間、絵と内容が恐ろしすぎて、子供がひきつけを起こし、まったそうです。急遽、発売中止、回収に。

子供、作家、出版社には不幸な経緯ですが、蒐集家にとっては、嬉しい顛末になったということです。心憂い性ですね。

主な活動は、県内外の講師を招いての公開講演会、会員による研究発表及び地域の他団体等との情報交流会の開催、他地域の巡検、年一回の会誌の発行（A五判、一二〇ページ前後）などで、会誌は四一を数えています。

また、現在、最上地方の歴史上著名な人物、並びに当地方の政治・経済・産業・文化・教育等に顕著な業績を挙げた故人を選び集録する『最上人物事典』の刊行に向けても活動中です。過年度は、収録予定の人物を選定、各執筆担当者の調整等行ってきましたが、今年度はいよいよ執筆に入ります。五

〇〇名に上る収録予定者について、基本的に会員たちが調査・執筆する作業は大変なところがありますが、がんばってやりきりたいと思っています。

前述のように、会員数の減少は大きな課題ですが、一昨年から再開した和やかな雰囲気での研究発表会に、一般の参加者が多く関心を寄せていることは、ひとつの希望になっています。

●事務局（連絡先） 〒996-0003 1 新庄市末広町3・21・906
三浦和枝 ●電話 0233・32・1622

日本歴史文化講座(ヒスカル)の好評開講中 戦国時代～全10回の内容～

戦国大名が、群雄割拠した動乱の時代。この時代の動向や特質を、二人の人物の関係という点に注目して、最新の成果をふまえた解説をします。

第1回 3月22日(金) 織田信長と正親町天皇	金子拓(東京大学准教授)
第2回 3月29日(金) 斎藤道三と斎藤義龍	木下聡(東京大学助教)
第3回 4月12日(金) 織田信長と足利義昭	水野嶺(東京大学地震研究所)
第4回 4月25日(木) 徳川家康と武田信玄	柴裕之(東洋大学非常勤講師)
第5回 5月17日(金) 策彦周良と大内義隆	須田牧子(東京大学助教)
第6回 5月24日(金) 島津義久と島津義弘	畑山周平(東京大学助教)
第7回 5月31日(金) 伊達政宗と上杉景勝	黒嶋敏(東京大学准教授)
第8回 6月14日(金) 豊臣秀吉と豊臣秀次	矢部健太郎(國學院大学教授)
第9回 6月21日(金) 徳川家康と豊臣秀頼	林見弘(東京大学助教)
第10回 6月28日(金) 織田信長と明智光秀	金子拓(東京大学准教授)

- 時間: 15:00 ~ 17:00
- 会場: 文化産業信用組合 / 千代田区神田神保町1-101 ☎03・3292・2711
- 定員: 50名 (問い合わせ・申し込み: 敬文舎03・6302・0699)
- 資料代: 2,000円(舎人倶楽部会員は1,800円)

あなたも
入会
しませんか

My 全人倶楽部 TONERI

好評
始動中!

歴史好きの方、あるいはこれから歴史を学ぼうとする方々とともに、歴史を知る楽しみを目的として集い語り行動する倶楽部です。現在、講演・講座の開催などで研究者との交流も行ってあります。

当倶楽部は、随時入会可能です。奮ってご参加ください。

■入会特典

- 講座・講演会の割引優待や無料受講券の進呈。
捺印5個で受講が1回無料になるスタンプカードの発行。
- 会報『My舎人倶楽部』を年4回送付。

■年会費

一般会員 3,000円 / 賛助会員 30,000円

特別賛助会員 100,000円

(会費のお支払い方法は、お申し込み時にお知らせいたします)

■お申し込み方法

お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、敬文舎または舎人倶楽部までEメール (toneri.k@blue.ocn.ne.jp)にてお申し込みください。

舎人倶楽部会報、講座などについて、ご意見・ご感想をお寄せください。

toneri.k@blue.ocn.ne.jp

敬文舎ホームページ <http://k-bun.co.jp>